

【 第26回男子世界選手権 】

2019年1月10日～1月27日 開催地:ドイツ、デンマーク

試合結果報告 1 月 17 日 (木)

| | | |
|-----------|----|-----------|
| JPN | VS | BRN |
| 9 | 前半 | 10 |
| 13 | 後半 | 13 |
| 22 | 合計 | 23 |

個人得点

| No. | 名前 | 得点 | 合計 |
|-----|------------|----|-----------|
| 10 | 杉岡 尚 樹 | 0 | 0 |
| 13 | 笠原 謙 哉 | 0 | 0 |
| 15 | 部井久 アダム 勇樹 | 0 | 0 |
| 16 | 甲 斐 昭 人 | | 0 |
| 18 | 成 田 幸 平 | 1 | 1 |
| 19 | 徳 田 新 之 介 | 0 | 0 |
| 20 | 渡 部 仁 | 5 | 5 |
| 21 | 土井レミイ 杏利 | 2 | 2 |
| 24 | 信 太 弘 樹 | 1 | 1 |
| 25 | 元 木 博 紀 | 9 | 9 |
| 26 | 久 保 侑 生 | | 0 |
| 27 | 玉 川 裕 康 | 0 | 0 |
| 29 | 岡 元 竜 生 | 0 | 0 |
| 31 | 吉 野 樹 | 2 | 2 |
| 33 | 東 江 雄 斗 | 2 | 2 |
| 44 | 門 山 哲 也 | 0 | 0 |
| | | | 22 |

戦評

本大会予選リーグ5試合目は、同じアジア代表であるバーレーンとの一戦。この1年間で5回対戦し、いずれも敗戦しているがここで一矢を報いて5位でプレジデントカップに進みたい一戦であった。

スタートから東江をトップに据えて、組織的なディフェンスから速攻で押し切る攻撃的な策がバーレーンを苦しめ、バーレーンのエース99番ALSAYYADに得点を許さず日本ペースで試合が進んだ。しかし日本も得点の流れが悪く優位に立てない。その中、渡部や吉野の得点で21分に逆転に成功。しかし終盤、タイムアウトを取ったバーレーンに27番BASHAMらの得点で再逆転されてしまう。その後もGK久保が7mTを止めるなど、相手の流れを潰すが、日本もミスを重ねてしまい、9対10の1点ビハインドで前半を終了する。

ハーフタイムに、もっとシンプルに強気で攻撃することを確認した日本は、渡部の2連取に始まり元木の速攻などで加点する。バーレーンの7人攻撃も死守し、後半14分過ぎには19対14と5点のリードを奪った。しかしここから試合巧者のバーレーンは、99番ALSAYYADを中心に個人技を駆使し、ジリジリと日本を追い上げる。日本も強い縦への攻撃を徹底し、7mTを獲得するが、このチャンスを活かすことができず、残り40秒で同点に追いつかれてしまう。ここで渡部が強気の1対1でディフェンスを抜き去るも、ゴールポストに弾かれてしまった。このまま同点でも5位が決定する日本だったが、バーレーン7番MERZAのステップシュートが残り3秒で決まり、22対23の1点差で逆転負けを喫した。

試合の流れを制し、苦手とするバーレーンを上回るプレーを見せたが、最後まで諦めずに個人が持ち味を発揮したバーレーンの気持ちに押し込まれる残念な結果となってしまった。これで予選リーグ6位となり、プレジデントカップに臨むが、これまでヨーロッパ勢相手に見せた成果と、この試合で学んだ代表としての強い気持ちをさらに強めて、まずは次の韓国戦で勝利を掴みたい。

報告記入者 : 舍利弗 学